

上砥山遺跡出土遺物の紹介

今回の調査では、川の跡から飛鳥時代から奈良時代（およそ1300年～1200年前）にかけての遺物が多数出土しました。ここでは特徴的な遺物を取り上げます。

琴柱（ことじ）

琴柱とは、琴の胴の上に立てて弦を支え、位置を移動することによって音の高低を調整するための用具です。川の跡から2点出土しています。特に注目されるのは、その内の1点で、文字とみられる墨痕が鮮明にみられます。元々は木簡として使用した木材を再利用して琴柱にしたと考えられ、二行三文字が確認できます。切断によって文字を正確に読み取ることは出来ませんが「し（しんにょう）」とみられる部首と「首」とも読める筆跡から1字は「道」ではないかと推測されます。大きさは高さ2.6cm、幅3.2cm、厚さ0.6cmです。

古代において琴は、神に音楽を供える際に用いる楽器とされ、祭祀の道具として用いられていました。さらに、琴から転じて琴柱も特別視され、琴柱単体でも祭祀の道具として用いられたと考えられています。上砥山遺跡出土の品は、琴本体が見つからないことから、琴柱自体が祭祀用の道具ではないかと考えられます。

硯（すずり）

須恵器の中空円面硯（ちゅうくうえんめんけん）という特殊な硯が一点出土したほか、食器として用いられる須恵器を硯として代用した転用硯が複数出土しました。

中空円面硯とは、中が空洞になった硯に筒状の把手が付いた硯で、7世紀前半から8世紀前半にかけてみられます。把手がついていることから、片手に硯を持ちながら文字を書く際に用いられた道具であると考えられています。上砥山遺跡出土の品は、把手部分と硯面の痕跡が残っていることから中空円面硯だと判断できます。

土馬（どば）

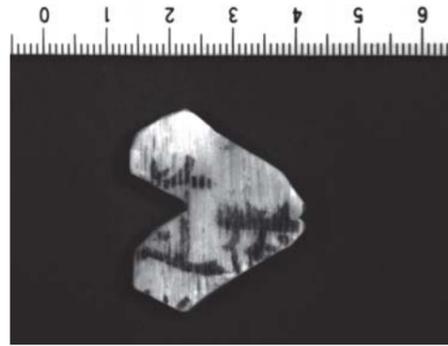
土馬とは、古墳時代から平安時代にかけて作られた馬をかたどった土製品で、その多くが川や溝、井戸といった水にかかわる遺構から出土することから、水にまつわる祭祀に用いられたものであると考えられています。

3点出土しています。その中で最も残りの良いものは、残存する部分の体長22.5cm、体高15cmです。胴部には線刻や粘土の貼り付けによって鞍や装飾を表現しています。残念ながら頭部と脚3本は欠損しています。

他に脚と考えられるもの1点、胴部片とみられるもの1点が川の中の別地点から出土しています。

まとめ

今回の発掘調査によって、不明な点が多い上砥山遺跡に新たな資料が加わりました。飛鳥時代から奈良時代にかけての大量の土器や木製品が川の跡から出土し、それらの中には木簡や墨書土器など文字が書かれたものや、文字を書くための道具である硯が見つかりました。また、祭祀具とみられる琴柱や土馬も複数点見つかりました。これらの出土遺物から、上砥山遺跡とその周辺地域に識字層がいたと推定され、彼らは、官衙などの公的施設で働いたり、または地域の有力者層だったと考えられます。そして、これらの人たちが川で祭祀を行っていたものと考えられます。



木簡を再利用した琴柱の赤外線写真

かみとやま 上砥山遺跡発掘調査 現地説明会資料

令和元年(2019)10月12日(土) / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

調査の概要

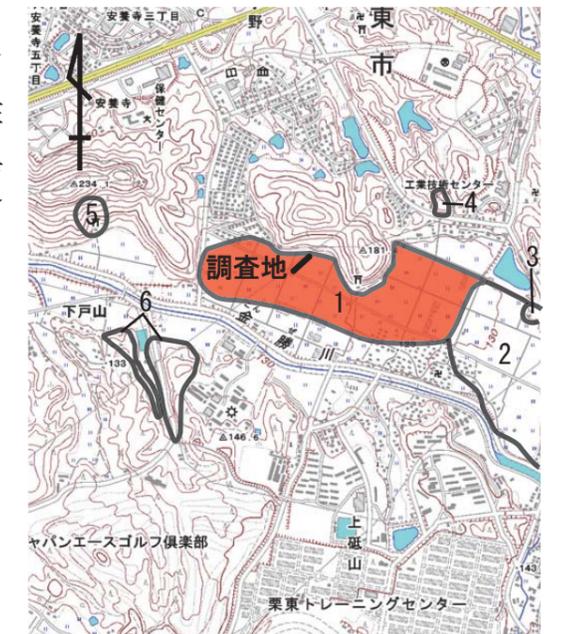
上砥山遺跡は、奈良時代から室町時代の集落跡として知られています。公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県教育委員会の依頼を受け、国土交通省近畿地方整備局滋賀国道事務所が工事を実施する国道1号栗東水口道路建設に伴う発掘調査を平成30年11月から実施しています。

栗東市中央部に位置する上砥山遺跡は、北側の低丘陵と南側に流れる金勝川に挟まれた狭小な平野部に立地する遺跡です。過去の発掘調査では奈良時代後半から平安時代にかけての建物跡や井戸跡が検出されています。今回の調査地は上砥山遺跡の北西部に位置しており、飛鳥時代から奈良時代にかけての川の跡や掘立柱建物跡が見つかりました。

とくに川の跡からは土器や木製品が多量に出土しています。これらの遺物の中には、木簡を転用した琴柱や墨書土器といった文字資料や文字を書くための道具である硯のほか、土馬などの祭祀にかかわるものも含まれています。



みつかった川の跡（手前の窪んだ部分）



1. 上砥山遺跡（奈良～室町時代、集落遺跡）
2. 中村遺跡（古墳時代～中世、集落）
3. 樋ノ口遺跡（白鳳～奈良時代、窯跡）
4. 上砥山古墳群（古墳時代後期、古墳群）
5. 五百井戸神社古墳群（古墳時代後期、古墳）
6. 山田遺跡（白鳳～奈良時代、窯跡）

上砥山遺跡と周辺の遺跡



①土器の出土状況 飛鳥時代の土器がまとまって出土しました



⑤墨書土器 須恵器蓋のつまみの横に「井」と墨書されています



⑦墨書土器 須恵器坏の側面に「太」と墨書されています



⑧奈良時代中期の掘立柱建物 東西2間(5m)×南北3間(7m)以上の規模です



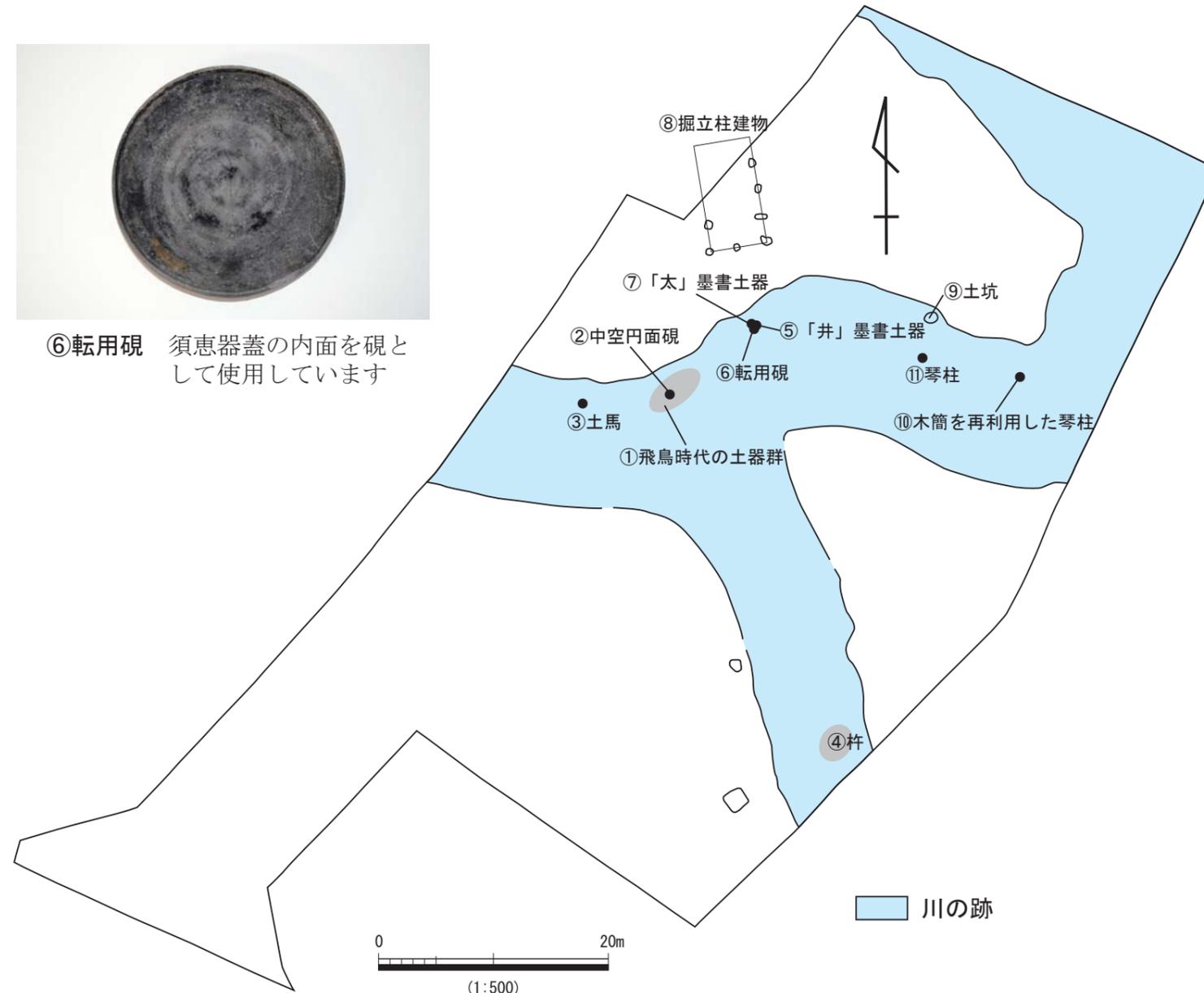
②中空円面硯 上面の墨を擦る部分と把手は欠損しています



⑥転用硯 須恵器蓋の内面を硯として使用しています



③土馬 頭部と脚3本は欠損しています



⑨奈良時代前期の土坑 土坑内から完形に近い土器が多数見つかりました。



⑩木筒を再利用した琴柱



④杵 3本まとめて出土しました



⑪琴柱 上のものと形状が異なります

※遺構図は全調査地を合成したもので、現在埋め戻されている場所もあります。

上砥山遺跡の主要遺構と出土遺物